財団からのご挨拶

並河靖之(1845･弘化２年～1927･昭和２年)は、明治･大正期に活躍し、帝室技芸員となった七宝家です。靖之が営んだ「並河七宝」の《工場》と《店》からなる旧並河邸を保存活用し、靖之の偉業と近代七宝業の遺構を将来に伝えるため、靖之の孫･靖と曾孫･正晃が、2003(平成 15)年 4 月に当財団を設立し、並河靖之七宝記念館を開館しました。

並河家は代々が青蓮院門跡坊官の家柄で、靖之も家業に従事していましたが、明治維新後に七宝業に転身し、現在の記念館の主屋は、事業の発展に合わせて普請され、1893(明治 26)年 4 月上棟、翌年に竣工しました。万国博覧会での栄誉により、海外からの来客が増えたため、外国人に不便が無いよう、室内の鴨居を高くし、廊下には硝子障子を廻らせ、庭の眺めを愉しんでもらうなど趣向を凝らしました。

その建造物や庭園が先ず、2003(平成 15)年に文化財となり、2008(平成 20)年には館蔵品が国登録有形文化財「工第 2 号　並河靖之七宝資料千六百六十二点」(七宝、下画、道具類)となり、建造物、庭園、館蔵品の全てに文化財価値を有する民間では希少な場所となりました。

2015(平成 27)年には、当館を含む界隈が国重要文化的景観「京都岡崎の文化的景観」に選定され、地域の風土によって育まれてきた暮らしや生業の高い文化性が評価されています。

こうした靖之の七宝業と並河家の暮らしが営まれた場を、さらなる未来に継承するため 2022(令和 4)年には文化財としての本格的な保存修理事業を行い、2023(令和 5)年 4 月にリニューアル開館しました。

記念館を末永く継承していくことこそが、当財団と記念館のなによりもの使命と励んでまいります。本日、ご来館の皆様には、是非とも、「並河七宝を語りつぐ」お一人になっていただき、ご支援賜りますれば、実に心強く、嬉しく、幸甚のみぎりです。

公益財団法人　並河靖之有線七宝記念財団　理事長
並河靖之七宝記念館　館長
並河　英津子